

きょうどう通信

第 24 号
クリスマス特別号
2025 年
12 月 21 日



もうすぐクリスマス。『きょうどう通信』編集委員が語る
クリスマスにまつわるエピソードをご紹介します。



あるご婦人から伺ったクリスマスの想い出。
「私には 4 人の息子がありますが、息子たち
が幼い頃にクリスマスプレゼントを用意する
のは楽しい一方、経済的に大変で苦労しまし
た。でも、その息子たちが独立してそれぞれ
に家庭を築き、子どもたちにプレゼントを配
るサンタさんになっています。私には、それ
が大きなクリスマスプレゼントです。」（澄）

*



*

出張先の海外でクリス
マスを迎えた人がいま
した。街の教会の礼拝
に行き、家族連れて賑
わうレストランで簡素
な食事をして支払いを
頼むと、「お代はいただ
いております」との返事が。驚いている
と「ようこそこの街へ。メリークリスマ
ス！」独りぼっちのクリスマスは、あた
たかで思いで深いクリスマスになったそ
うです。（徹）

2023 年 9 月、私は聖地巡礼研修にあってヨルダン川西岸地区のベツレヘムを訪れ、聖誕教会
にて幼子イエスが寝かされた家畜小屋とされる場所に手を置き祈りました。多くの巡礼者が賑
やかに集い装飾も華やかで、落ち着いた場所ではありませんでした。翌 10 月から戦争が始ま
って、ガザ地区はガレキの山と化し、多くの幼子が命を奪われました。クリスマスを迎えたベ
ツレヘムのルーテル教会では、ガレキの上に幼子イエスが寝かされ世界中の注目を集めまし
た。2000 年前、この世に歓迎されず貧しさの中に生まれたイエスは、今日にあってはガレキ
に暮らし命の危機にある人々と共におられるとの信仰です。（望）



ガレキに寝かされた幼子イエス



姉の家ではサンタさんのプレゼントは飴一つだ
そうです。理由を聞いたところ、世界中にいる
良い子へのプレゼントの量は大変な大きさにな
るから、サンタさんからのプレゼントは飴一つ
で、子どもたちの欲しい物はお父さんお母さん
がプレゼントするといったそうです。それから
我が家でもサンタさんのプレゼントは飴一つに
なりました。（功）

北関東・東京教区

「新教区設立への道」の現在地⑧

宣教協働特別委員会 司祭 斎藤 徹

父の仕事場が銀座にあったため、クリスマス頃には毎年母に連れられて、ミキモトのクリスマツリーを見に行きました。小さい頃はキラキラ光るツリーがそれほど大きく見えて、マッチ売りの少女が見たツリーはこんなだったかなと見上げていたものです。そして向かい側のデパートの前で救世軍の社会鍋に献金して帰るのがお決まりのコースでした。(雪)



クリスマスの夜、両親と夜景のきれいなホテルに宿泊しました。食事も終わり就寝の折、大地を揺るがすような両親のイビキと歯ぎしりで眠れなくなりました。

泣きそうになりながらもいつの間にか眠ったわたし。翌朝起きた時、枕元に当時流行りの可愛いパンダのぬいぐるみがおいてあり大喜びでした。嬉しかったなあ！（西）

本年秋に開催された北関東・東京教区それぞれの定期教区会において、両教区がひとつになり、新教区「日本聖公会東日本教区」を設立することが承認されました。2026年2月23日に開催されることが公示された日本聖公会総会での承認によって、新教区の新たな旅路が始まります。

全てのことが整つて新教区設立を迎えたのではなく、むしろここから新しさの中へと踏み出していく日々が始まっています。手探りで、また悩み、立ち止まりながら整えていくことや、始めていくことが多いでしょう。

それでも、私たちは新しくされていくことに決めました。キリストの福音を伝える神の宣教に、また地域社会に根ざす教会・礼拝堂の歩みに、深く関わっていく教区という共同体を、東日本教区のみなさんで創る新たな旅です。喜びと楽しさを分かち合い、苦しみと痛みを抱い合つ冒険の物語を一緒に紡いでまいりましょう。

きょうどう俳句・川柳

白露や パンとぶどうしゅに 活かさるる

(野菊)

* * *

新教区 星を田指して あゆみゆけ

* * *

「かなわぬ願い」

大掃除 終えて迎える クリスマス

大晦日 整理尽くせぬ 年賀状

降誕を 祝つて飲んで もうレント

『きょうどう通信』へお寄せください。
宣教協働へのご意見・ご質問は下記メールアドレスまで。ご意見は「特別委員会」で共有します。投稿はすべてを掲載できませんが、ご了承ください。
「新しい」をテーマにした俳句・川柳もお待ちしております。俳号・匿名どちらでも可です。
kouhou.k.t@gmail.com

『きょうどう通信』第24号

北関東教区・東京教区宣教協働特別委員会

広報小委員会